

しあわせの村 野鳥物語



さあ、観察を始めよう

バードウォッチングは、自宅の庭や近くの公園で簡単にできます。若葉が茂る前の春先と落葉した秋から冬にかけてが観察によい時期です。春は野鳥のオスが子育て相手のメスを見つけ、縄張りを主張するために大きな声でさえずり、よく動くので見つけやすい。秋は木の葉がないので野鳥を見つかりやすく、冬の使者のカモ類も北の国から渡って来ます。

しあわせの村は、年間約80種類の野鳥と出合える身近で恵まれたバードウォッチングの場所です。野鳥の視力は人間の7 - 8倍といわれ、私達が近づくと目敏く見つけ、注視しています。野鳥を驚かせないように、余り動き回らず、静かにウォッチすることが大切です。私達がしばらくじっとしている(10分位)と、野鳥は警戒心を解きますので、それからが観察のチャンスです。

野鳥観察は、探鳥会に参加したり、野鳥観察に慣れた方に同行したりして、まず肉眼で野鳥のい

る場所、姿、大きさなどに慣れること。鳴き声を聞いて、簡単な野鳥図鑑を参考に、双眼鏡やスコープを覗かせてもらうことから始めるのが良いでしょう。次に、手ごろで扱いやすい双眼鏡を購入します。電器店やホームセンターで、初級機種なら5千



イラストは野鳥観察会提供

1万円くらい。ニコンやキャノンなどの上級機種は2 - 3万円くらいで入手できます。(略図参照)。将来的にはスコープ(望遠鏡型)があれば、観察の楽しみもふえます。ニコン製の普及機種(20~40倍)ならアイピース、3脚共で7 - 10万円くらいです。(野鳥と自然観察会・茅中英一)

特別支援へのアドバイス

講師招いて学習支援の集い

今年度初めての「学習支援の集い」が4月20日、シルバーカレッジ学習室で開かれ、登録者60人が参加しました。今回は、養護教育の専門家・小部小学校の薬師寺勤校長(写真)を招いて「ボランティアの皆さんに期待すること」をテーマに話し合いをしました。

支援者の悩みや、戸惑いが多い特別支援(なかよし学級)について、「子供たちにとって学校は唯一の憩いの場なのです。できるだけ声をかけ、顔を見つめ、話しかけてやってほしい」「教科書(模範解答)はありません。どんな事態にも対応できる心構えが大切。子供たちがリラックスできる雰囲気づくりをしてほしい」とアドバイスがありました。

参加者からは「なかよし学級での接し方がわかり、理解が深まった」「支援者の悩みや疑問に答えてもらってよかった」との感想が聞かれました。

今年度は、支援校を50校・実働支援者を70人にふやす。在校生にも支援仲間に加わるよう積極的に呼びかける教材や情報の提供など内容面の



充実 講習や体験交流を活発に行い支援者のスキルアップを図るを重点目標に活動することを確認。市内を5ブロックに分けて、支援委員が登録者のサポートをする体制をスタートさせることになりました。

愛称は「花実の森」

愛称は「しあわせの村 花実(はなみ)の森」にグループわが、この春から整備を進めているカレッジ北側の里山のネーミングが決まりました。ここは、ハギ・ツツジ・ササユリ・キンランなどの花、クヌギ・コナラ・ヤマモモ・シバグリなど実をつける木々が多く、子供たちの環境学習にはもってこいの場所です。県の助成を受け、5年がかりで憩いの森として整備を進めるものです。愛称と同時にポスター、パンフ類を制作。里山整備の活動を手伝ってくれるカレッジ生・OBを募っています。申し込みはわ本部(743-8101)へ。
里山整備ボランティア募集